

2003 年度 情報化委員会・相互協力委員会合同情報交換会記録 (第5回情報化委員会・相互協力委員会合同委員会)

日 時：2003 年 12 月 16 日（火） 10:00～17:00
場 所：名城大学 タワー75 13 階会議室および附属図書館視聴覚室
司 会：金城学院大学 鈴木卓美
記 録：朝日大学 山本祐子
南山大学 岩田真美

参加大学：29 大学 53 名

愛知大学、愛知医科大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、朝日大学、岐阜聖徳学園大学、岐阜女子大学、金城学院大学、皇學館大学、椋山女学園大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿国際大学、中京大学、中部大学、中部学院大学、東海学園大学、豊田工業大学、豊橋創造大学、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名古屋経済大学、名古屋女子大学、南山大学、日本福祉大学、人間環境大学、名城大学、四日市大学

< プログラム >

10:00 会場校挨拶

名城大学附属図書館 情報管理課長 飼沼敏雄氏

10:05 アンケート結果報告

情報化委員会 古田明彦委員（中部大学） 柿原明子委員（名古屋経済大学）
相互協力委員会 柴田なおみ委員（椋山女学園大学）

10 月に実施された情報化委員会・相互協力委員会合同アンケートの集計結果について、各委員会委員より報告が行われた。

10:40～12:00、13:00～14:30 分科会（詳細は別紙分科会記録）

以下の三つの分科会に分かれ、事前アンケートを基に情報交換が行われた。

- ・ 第1分科会 「図書館サービス向上の方策」 参加者 18 名
- ・ 第2分科会 「ネット世代の利用者教育」 参加者 17 名
- ・ 第3分科会 「図書館システムと学内システムの連携」 参加者 18 名

14:30～15:00 全体会

各分科会で話し合われた内容について報告が行われた。

また、愛知淑徳大学から出された以下の質問に対して、質疑応答が行われた。

【質問内容】

カウンターと利用者出入口が離れている大学の事例と、運用上の問題点を伺いたい。

【事例・問題点】

金城学院大学：入館システムを採用しているが、学生証を忘れた学生や学外者が入館したい場合、大声で呼ばないとカウンターに声が届かない。

東海学園大学：資料の無断持ち出しに対して、出館ゲートとカウンターが離れているため対処しにくい。

さらに、鈴木相互協力委員会委員長より、2004年4月からスタートするILL文献複写等料金相殺サービスへの参加の呼びかけがあった。

15:30～17:00 プレゼンテーションセミナー

15:30 プレゼンテーションセミナー 1

「Super HABIL」/株式会社 エム・ビー・エー

利用者がWeb上で貸借・複写依頼をし、その情報を受けて図書館サイトでオーダーができる相互貸借総合システムを中心に説明があった。M.B.A社が管理するサーバーへのアクセス環境下では、コンソーシアム化による経費節減やサービス向上となる提案があった。

16:00 プレゼンテーションセミナー 2

「図書館サービスと横断検索(OAI-PMH、Z39.50)」/日本電子計算株式会社、インフォコム株式会社

メタデータ収集のためのプロトコルOAI-PMHと、情報検索用のプロトコルZ39.50を利用した、メタデータの選択的収集・公開、横断検索、電子図書館システム等の構築や更なるWebを活用した利用者サービスの可能性について説明があった。

16:30 プレゼンテーションセミナー 3

「E-Paper 電子ペーパー」/富士ゼロックス株式会社

紙の扱いやすさと電子の便利さを併せ持ち、増大するデジタル情報を誰もが簡単に取り扱うことが可能な環境ツール。薄く、軽く、安価に製造でき、何度も再利用できるため、将来的には出版物やPDAなどの表示装置として使われることも見込まれている電子ペーパーについての説明とデモンストレーションがあった。

17:00 閉会

以上